



日九廿
刊 朝

磐城時報

福島縣石城郡平町野屋町十四
編輯兼發行人 岡田弘成
印刷 所 加勢活版所
福島縣石城郡平町野屋町十五
發行 所 磐城時報社
一部金貳錢一ヶ月金壹拾錢
廣告料一行十四字計金五錢
▲日刊(日曜祭日)休刊



聖上御踐祚第一次の 天長の佳節を奉祝す

磐城時報社同人

今日天長の佳節を迎へ謹んで聖壽の萬歳皇運の隆盛を祝福し奉るに當り百鳥空に歌ひ百花地に艶を競ひ新緑日光に輝いて中和と希望との光天地に満つるを覺ゆるは蓋し昭和聖代の前途の洋々たるを如實に物語るものであらう。

伏して惟ふに今日の天長節は三の重大なる意義を有つ次第であつて其一は、今上陛下御踐祚以來第一回の天長節祝日であるといふことであり第二は今年秋を以て御即位の大典を舉行せらるゝといふことであり第三は今年を以て普通選挙の第一回を施行せられたといふ事である。今年二月二十日普通選挙法は遂に實施せられた眞に劃時代的事であつたが然し今日から之を省みて眞に普選の目的は達せられたであらうか。

此度の普選に於て一千二百萬の有権者中棄権者数は僅かに其一割九分七厘であつたといふ事は兎に角成功であらう然しながら此普選に依つて増加した九百萬の所有権者が其權利を如何に行使したかは是れが問題である然るに之を其結果から見ると此度の選挙は舊態依然の四字に盡きる強ひて是を求むれば八名の無産黨員が出たといふに過ぎないのである。

蓋し有権者の著しき増加は決して無意義ではなく選挙權の擴張は國民開發の機會を興へ且又選挙區の擴大と共に政戦をして自ら公明正大ならしむるであらうが現在の社會組織に於ては地方有力者の向背如何が多くの所有権者を左右するが爲に此度と雖も其結果が舊態依然であつたのは寧ろ當然の事である即ち舊態依然たる其中心勢力が從來の有権者を支配したと同様に新有権者を支配したと同様に新有権者を支配したと同様に新有権者を支配したからであつて買収壓迫の弊は勿論絶えなかつたばかりか寧ろ増加の傾向にあつた如くであるのは遺憾千萬と言はねばならない。

於此吾人の考慮すべきは吾人の期待した普選の結果は此の如くにして其第一回を終つた而して吾人は今日何物を待たか我こそ民意を代表するものなりと自惚れ合ふ愚劣なる黨争を以て覆しつゝある政民兩黨を依然として爲政者の頭領たらしめなければならぬので終つて居るのでないか。

要するに議會制普選法共に應時の制度であるに過ぎない要は人心の開發である國民の自覺である今日昭和の聖代をして眞に昭和の光榮あらしむるは歐洲大戰以來施設し切つた國民の覺醒を其第一條件とする今年戊辰の年に際して誰言ふともなく昭和維新の聲が盛んである所謂民の聲とは斯の如きを言ふのであらうが然しながら同じく維新を叫ぶと雖も其見解に至つては各人各様であつて必ずしも其目的を同一にしないのは蓋し國家の國是の確立されたものがないからである國家存立の根本を忘却して居るからである建國以來三千年我立國の大本は那邊に在りや他の語を借りるまでもない今日年號に戴く所の昭和の二字の夫れであらう昭和は昭明和は平和聖上陛下の大稜威の下に世界萬邦の正義と平和とを確保するは即ち我民族の光榮ある使命である此意味に於て今日謹んで天長の佳節を奉祝し皇國の前途を祝福すると共に我國民精神の作興を促してやまない次第である。

<p>天長節</p>	<p>祝 奉</p>				<p>御踐祚 第一次</p>
<p>平藝妓屋組合</p>	<p>山崎與三郎</p>	<p>木村清治</p>	<p>釜屋商店</p>	<p>白井一郎</p>	<p>石城郡銀行 合組</p>
<p>古川傳一</p>	<p>磐城水產工業 株式會社</p>	<p>小野晋平</p>	<p>松田卯次朗</p>	<p>堀江工業 株式會社 社長 江口忠一</p>	<p>平製氷株式會社 平魚市場</p>
<p>入山採炭株式會社 湯本礦業所</p>	<p>平驛前 平電氣株式會社 電話七六四番</p>	<p>東部電力株式會社 平營業所</p>	<p>植田水電氣株式會社 社長 金成通</p>	<p>平町 山崎合名會社 電話一〇番</p>	<p>四倉會社銀行 合組</p>
<p>中野甲藏</p>	<p>植田物產株式會社 山崎登</p>	<p>磐城建物株式會社 支配人 井上貞治郎</p>	<p>小田吉治</p>	<p>古河鑛業株式會社 好間鑛業所</p>	<p>小田炭礦株式會社 社長 萩原申八</p>